

雪山デビュー、冬のランチコンテスト 入笠山

実施日 2014年3月1日(土)~2日(日)
 天候 薄曇り/霧
 リーダー 若村 勝昭
 参加者 若村貴世子、若村勝昭、安田三恵子、石附智江、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、石附智子、石附恵理子、滝澤きよの 計10名
 費用 JR6,000円(高尾起算)ゴンドラ往復1,200円 往復700円 宿泊費 7,800円
 タイム 3/1 富士見駅(10:49)パノラマゴンドラ山麓駅(11:20)山頂駅(11:35~11:55)入笠湿原入口(12:15~12:55)マナスル山荘(13:40)入笠山頂上(14:20~14:30)マナスル山荘(15:20) 泊
 3/2 マナスル山荘(8:40)入笠山山頂(9:20~9:40)マナスル山荘(10:10)三叉路分岐(10:15)首切清水(11:15)大阿原湿原(11:35~45)首切清水(12:00~12:40)ゴンドラ山頂駅(13:40)ゴンドラ山麓駅(14:10)

3/1

10日前の関東地方大雪の後、種々予定変更して実施しました。

そもそも、宿泊予定の小屋は数か月前に火事で焼失とのこと、慌てて他の小屋を予約。数日前にTELしたら坂入登山口まではタクシー入らず、その上の登山路は胸までのラッセルとのこと。「ゴンドラで来てくらせ!!」とのこと。

脚力、体力充実のこぶし会員のご満足をいただけるか危惧しながら、ゴンドラ山頂駅では、久しぶりの冬山の身支度に大騒ぎ。

まずスパッツを着け、雨具のパンツを履く。少し歩けばすぐ汗をかく

ので上は少し薄着になって雨具の上着をはおる。フードはちゃんとかぶれるか、チャックも締まるかチェックする(ここ韻を踏む。念の為)。手袋、耳をおおう帽子で身を固め雪の上へ。アイゼンも久しぶり、金具を外側にして左右の区別。ザックの外側の水筒はザックの中へ格納して凍結防止。

スキー場の上からすぐ登山路、しっかりした雪道を歩く。アイゼンのキシキシ音が気持ち良い。

林間から入笠湿原を横断、林道へ出てマナスル山荘へ。



荷物を置いて入笠山山頂へ。時々雪の深間にはまるが、歩きやすいトレース。

吹きさらしの頂上は生憎の曇天。八ヶ岳の山麓の広さのビックリ。

あとは、澄み切った清い心で南ア、北ア、中ア、御嶽、白山、戸隠、浅間、奥秩父の山々を雲の中に見通す(全然見えませんでした。念の為)。



下って、小屋で恒例の飲み会。嬉しいサプライズパーティーもあって和やかで満ち足りた団らんの時を過

ごしました。

3/2

朝一瞬の晴れ間を狙って、また入笠山山頂へ。残念、眺望は昨日と同じ。



下って、大阿原湿原へ。

分岐路からは踏み跡なく、スノシュー組がトレースを付けて行く。

湿原から戻り、首切清水で昼食。山のランチコンテスト開催です。

冬の山のランチは行動食スタイルで



- ・凍らないもの
- ・立って食べられる（雪の中では座れない、寒いので長く休めない）

- ・歩きながらでも食べられる
- ・いつでも食べられる（ザックから出さずポケットに入れられる）
- ・カロリー、糖分、塩分が適度に摂れる
- ・水分が無くても食べられることが必要。

雪の上にそれぞれ広げ、審査委員長（若村）の厳正で公明、中立、個人的えり好みの下に審査する。

その結果、

1位 乾燥煮干し、乾燥イチジク、バタークロワッサン、大豆ナッツ、チーズタラのパック入り行動食スタイル（授賞理由：歩きながら常時口にできる、簡便で栄養的にもバランスが良いなど冬の行動食に最適）

2位 チーズリゾット（授賞理由：インスタント山菜雑炊、スライスチーズ、スープの素というありふれた



食材の組み合わせでおしゃれなイタリアンになった。山のランチがレストランに変身？)

3位 冷凍たこ焼きの解凍したもの（授賞理由：これまでたこ焼きのランチなど見たことが無い。着想抜群。1個試食させてくれたのがなによりの授賞理由）とした。

そのほかの皆さんのランチもそれぞれ工夫があって楽しい。他人のメシは面白い。

表彰式が終わった頃、約1人のランチがようやく完成。生めんを



茹でこぼし、スープを注ぎ、カイワレ大根、煮玉子、厚切りチャーシュー入りのラーメンが完成した。見るからにおいしそう。寒い雪面に熱い湯気と、ズズッと麺をすする音と匂い。「冬の行動食」という条件さえなければ1位になるかも。



ランチコンテストの後は、往路を辿りゴンドラへ。

下って水神温泉で寒さ

で固まった足腰をあたためて列車の人へ。

（記・若村 勝昭）

（写真提供・伊藤 久雄）